

「埼玉の親しみやすい水辺集」

調査報告書

平成 25 年 3 月

彩 の 川 研 究 会

## はじめに

この報告書は、平成 24 年度に彩の川研究会が実施した『埼玉の親しみやすい水辺集』調査の結果をとりまとめたものである。

埼玉県は、河川の県土に占める割合が全国一であり、また水辺の面積が県土に占める割合も全国 4 位で、古くから流域住民の日常生活は川と密接なかかわりを持っていた。一方、近年は、高度成長期を経て多種多様な成熟社会となり、良好な環境が求められるようになった。こうしたことから、川からの恵みを受けるために川の持つ自然環境がより注目され、だれもが川の持つ良好な河川環境を享受できるように河川環境整備が進められてきた。

これらの国・県・市町村等による河川環境整備の実態を調べるとともに、河川の水辺が地域住民に親しまれてきた背景や、近年求められている防災の観点からの水辺施設としての役割について現地調査を行った。

その成果を取りまとめて、「埼玉の親しみやすい水辺集」を編集し、国や県の河川関係機関に提供するとともに、県内図書館等に寄贈し、県民の「川への親しみ」と「河川事業への理解」を醸成することを目的として、本調査を実施した。

当研究会は、埼玉県在住の公益社団法人日本河川協会会員で構成されており、川にかかわる知識と経験豊富な会員の能力を活用して調査委員会(代表篠塚正行)を立ち上げ、県土整備事務所所管区域をベースに、6 つの班を編成して調査にあたった。文献・資料、聞き取りおよび現地調査を実施して、個別の調査票にとりまとめた。

この水辺集に手をふれることにより、川が生み出す多くの良好な水辺環境を知り、県民・流域住民の方々が「川への親しみ」と「河川事業への理解」を少しでも深めていただければ幸いである。

彩の川研究会 会長

尾崎 邦夫

# 「埼玉の親しみやすい水辺集」調査報告書

## 目 次

第1章 調査概要	1
1-1. 調査の目的	1
1-2. 調査の内容	1
1-3. 調査実施体制	2
1-4. 調査の方法	2
第2章 親しみやすい水辺のあらまし	4
2-1. 調査・整理件数	4
2-2. 親しみやすい水辺のあらまし	5
第3章 地域別の水辺	10
3-1. さいたま・越谷	10
3-2. 朝霞・川越	13
3-3. 飯能・東松山	17
3-4. 熊谷・北本	21
3-5. 行田・杉戸	25
3-6. 秩父・本庄	29
資料編（調査票）	35
資料-1. さいたま・越谷	36
資料-2. 朝霞・川越	81
資料-3. 飯能・東松山	120
資料-4. 熊谷・北本	172
資料-5. 行田・杉戸	209
資料-6. 秩父・本庄	246

## ●編集委員会

この報告書の編集は、彩の川研究会「埼玉の親しみやすい水辺集」調査委員会のメンバーが編集委員会を開催してとりまとめた。

代 表 篠塚正行 相談役 小林寿朗  
委 員 浅見 優、新井 勲、飯島敏之、石島 威、鴨田 清、  
木内勝司、桑島弘治、宮田信一、横倉輝夫、吉田耕三

「埼玉の親しみやすい水辺集」調査報告書

平成 25 年 3 月

編集 「埼玉の親しみやすい水辺集」編集委員会  
発行 公益社団法人日本河川協会 彩の川研究会

問合せ先 彩の川研究会事務局 TEL 090-2557-7766  
〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合 2-11-7-1310

※埼玉の親しみやすい水辺の調査研究は、財団法人河川環境管理財団による河川整備基金助成事業の助成を得て行った。